

令和 6 年 4 月 18 日

教 育 長 様

(※受付番号)

| |
|-------------------------|
| 研究コース |
| A グループ研究 A |
| 校 園 コード (代表者校 園 の市費コード) |
| 732665 |

| | | |
|-------|-------------|---------------------|
| 代 表 者 | 校 園 名 : | 大 阪 市 立 墨 江 丘 学 校 |
| | 校 園 長 名 : | 進 藤 文 代 |
| | 電 話 : | 6674-3612 |
| | 事 務 職 員 名 : | 颯 田 涼 介 |
| 申 請 者 | 校 園 名 : | 大 阪 市 立 墨 江 丘 中 学 校 |
| | 職 名 ・ 名 前 : | 首 席 木 下 祐 介 |
| | 電 話 : | 6674-3612 |

令和 6 年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

| | | | | | |
|---|-------|--|------------|------|-------------|
| 1 | 研究コース | コース名 | A グループ研究 A | 研究年数 | 継続研究 (2 年目) |
| 2 | 研究テーマ | 子どもたちの「心」に寄り添い、未来を生き抜くための教育活動の実践 | | | |
| 3 | 研究目的 | テーマに合致した目的を項立てして記載してください。 1. コロナ禍も 3 年を終え、通常の学校生活に戻りつつある中、これまで様々な制限がある中で過ごしてきた子どもたちの心に焦点をあて、今後の人生を生き抜くために、教職員がどのような形で寄り添い、関わっていくべきかを考える。 2. 過去の自然災害や事件等において、事象後の 3 ～ 5 年後に PTSD の発症や、過度のストレスからの不登校や問題行動の急激な増加が起こっていることに着目し、発生当時に最前線で関わってきた方や現地の有識者や専門家に学びを受け、大阪市の不安を抱える子どもたちへの向き合い方を考えるきっかけにする。 3. PTG (心的外傷後成長) の視点にも注目し、心の成長、レジリエンスについて専門家を招いた特別研修や現地視察を行い、子どもたちの心の成長と未来を生き抜く力を後押しできるようにする。 4. 令和 6 年度に不登校特例校が設置されることにもつなげ、課題のある子どもたちに対して、学校・家庭・地域が今後どのように連携し、子どもたちに関わっていくかを考えるきっかけにする。 | | | |
| 4 | 研究内容 | (1)研究内容の詳細 ※継続研究 2 年目以降は 1 年目の記載をコピーして貼付する ・今年度から様々な制限が緩和されるなか、3 年間の制限によるストレスや我慢が見えない形で子どもたちの心や行動に現表れるわことが予想される。東日本大震災の被災地においても、震災後の 3 ～ 5 年後に PTSD や過度のストレスによる問題行動や不登校などが増加していたことに着目し、これまでの自然災害や人災後の現地の様子や取組を学ぶため、現地の有識者を招いた教職員研修や実地研修を行う。 ・子どもたちの心の部分に焦点をあて、心のケアや心の成長を促すために教職員がどのように働きかけるべきかを考え、前例にとられない今の現状に合わせた子どもたちへの関わり方を研究・実践する。 ・他府県を視察し、「心のケア」や「心の成長」に関して先進的な取組を行なっている有識者や団体に直接話を伺うことで、今後の大阪市の教育活動にどうつなげていくべきか検証する。 ・東日本大震災後に宮城県教育大学が中心となって行われた p4c (子どものための哲学対話) を学び各学年の特別活動で取り入れ、今後の教育活動につなげていく。 ・南海トラフ巨大地震や感染症対策等、今後の先行きの見えない不安やストレスに対して、どのように子どもたちの心に寄り添い、関わっていくべきかを研究・実践する。 (2)継続研究 [2 年目] ※継続研究 3 年目の場合は、2 年目の記載をコピーして貼付する 1 年目の研究の中で、生徒一人ひとりに様々な課題や悩みがあることを改めて実感した。同時により深く考察を行い、生徒の心に寄り添い、一人ひとりが安心して前向きに取り組めるような環境づくり、教育活動の実践が必要であると感じた。心に寄り添う視点と心を輝かせる視点を軸に、有識者を招いた研修や講話、全国各地の先進的な実践を行っている学校・関係諸機関の視察を通して、本研究と今後の教育活動のさらなる発展につなげていきたい。また学校全体で実践を行うとともに、研究成果や教育実践を大阪市全体に還元していきたい。 (3)継続研究 [3 年目] | | | |

| | | |
|---|----------------|---|
| 5 | 活動計画 | <p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p>4月 研究テーマ、研究の進め方、見込まれる成果等について検討する。 年間計画を立案、生徒・教職員アンケートの作成 地域主催の子ども食堂のボランティア活動への参加（月1回） 火災を想定した避難訓練の実施</p> <p>5月 年間計画の決定、特別講師の日程調整 教職員全体に計画の周知（研究テーマ・今後の実践内容について周知・共通理解を図る） アンケートの実施（生徒・教職員）、町会別防災リーダーの選定 いじめ・いのちについて考える日（生徒会主体による）</p> <p>6月 アンケート結果を受けて方針・取組の具体的な内容を決定 地域の清掃ボランティア活動（1年生）</p> <p>7月 避難所体験学習の立案、地域関係諸機関との調整 麗澤大学教授 大久保俊輝先生による教職員研修（不登校生への対応、心のケアの視点から）</p> <p>8月 東北地方視察（311命を守る教育研修機構による被災地実地研修への参加） 東北大学非常勤講師 齋藤幸男先生による保護者地域関係諸機関への講演会 防災リーダー研修会</p> <p>9月 入江富美子さん、南弥生さんによる講話、自主上映会（命を大切にする、輝かせる視点から） 北陸地方視察（能登半島地震における中学生の役割、災害の備えや心のケアについて）</p> <p>10月 東北大学非常勤講師 齋藤幸男先生によるリーダー研修、教職員研修 生徒会リーダー研修、交流会</p> <p>11月 避難所体験学習の実施（リーダー育成、心を輝かせる視点から） 地域主催の防災訓練への参加</p> <p>12月 四国地方視察（心を育てる、輝かせる視点から） 避難所体験学習の報告会、小学校・区役所等関係諸機関への報告・発表</p> <p>1月 アンケートの実施（2回目）、生徒会取組（小学校出前授業）</p> <p>2月 地震・津波を想定した避難訓練（生徒会主体による） アンケートの分析、がんばる先生支援報告書作成 がんばる先生支援 研究発表会</p> <p>出張を伴う研究会への参加、外部講師を招聘する研修会の実施等、経費執行が必要な取組を記載してください。</p> <p>311命を守る教育研修機構による被災地実地研修への参加（宮城教育大学主催） 麗澤大学教授 大久保俊輝先生（教職員研修） 東北大学非常勤講師 齋藤幸男先生（生徒・教職員研修、地域対象の講演会） 映画監督 入江富美子さん、南弥生さん（生徒・保護者・教職員対象の自主上映会）</p> |
| 6 | 見込まれる成果とその検証方法 | <p>(1)継続研究（2年目、3年目）において検証方法の変更の有無を記入してください。</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;"> <input type="checkbox"/> 変更しない。 <input checked="" type="checkbox"/> 変更する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; flex: 2;"> <p>理由</p> <p>より広い視点で検証を重ねていきたい</p> </div> </div> <p>(2)大阪府教育振興基本計画に示されている、「<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>」および、「<u>教員の資質や指導力の向上</u>」について見込まれる成果を端的に記載し、その成果について客観的な指標により、必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。（いずれかに<input checked="" type="checkbox"/>を入れてください）</p> <p>【見込まれる成果1】</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>他府県の視察において、経験者・有識者の意見を受け、自校の教職員に学びを発信し、大阪府の教育活動に役立てる</p> <p>《検証方法》</p> <p>教職員研修においてアンケートを作成し、今後の教育活動の参考になったという項目で肯定意見を80%以上にする</p> <p>【見込まれる成果2】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>コロナ禍で子どもたちが抱えてきた不安やストレスを検証し、教職員全体で学年取組・学校行事を通して実践を行い、心のケアや成長を促していく。</p> <p>《検証方法》</p> <p>事前・事後にアンケートをとり、事後アンケートの際、事前アンケートより肯定意見、評価を80%以上向上させる</p> |

| | | | | | | | | |
|----|-----------------|--|--------|-----------------|----|--------|----|-----------------|
| 6 | 見込まれる成果とその検証方法 | <p>【見込まれる成果3】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <p>心のケアや不登校対策、命の大切さについて有識者や専門家を招き、研修や講話を通して生徒・保護者・教職員の意識を向上させる</p> <p>《検証方法》</p> <p>感想用紙において、肯定的な意見・感想を8割以上にする。生徒・教職員研修に関しては今後の教育活動につなげることができたか報告会を通して検証・報告する。</p> | | | | | | |
| 7 | 研究成果の共有方法 | <p>◆研究発表【必須】 報告書提出日（令和7年2月21日）までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table><tr><td>日程</td><td>令和 7 年 2 月 17 日</td><td>場所</td><td>墨江丘中学校</td></tr></table> <p>◆waku^{x2}.com－bee掲載による共有【必須】</p> <p>○掲載の日程（予定）</p> <table><tr><td>日程</td><td>令和 7 年 2 月 20 日</td></tr></table> <p>◆他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p> | 日程 | 令和 7 年 2 月 17 日 | 場所 | 墨江丘中学校 | 日程 | 令和 7 年 2 月 20 日 |
| 日程 | 令和 7 年 2 月 17 日 | 場所 | 墨江丘中学校 | | | | | |
| 日程 | 令和 7 年 2 月 20 日 | | | | | | | |
| 8 | 代表校園長のコメント | <p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>本校は本年度のテーマに『命』を掲げており、防災や命について真剣に考え、自分の命・周りの命を大切にできるよう取り組んでいきたいと考えている。これらの教育活動において、これまで様々な制限での学校生活を余儀なくされてきた生徒の心に視点をあて、今後の教育活動においてどのように心のケアを行うか、心の成長を促すべきかを学び、実践するきっかけにしていきたい。自然災害に対しての防災教育だけでなく、いじめや不登校、人権問題などの人災にも着目し、災害や問題を防ぐという観点だけでなく、心に寄り添い育んでいく教育活動につなげていきたい。本校だけでなく、大阪市全体にもつながる研究なので、ぜひ実践していきたい。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>地域に生きる子どもたちが、防災を通して「生きる」大切さを学び、自分の命・周りの命を大切にできるよう取り組んでいきたい。これらの教育活動において、コロナを経験してきた生徒の心に寄り添い、個に応じたきめ細やかな心のケアを行うか、心の成長を促すべきかを学び、実践するきっかけにしていきたい。自然災害に対しての防災教育だけでなく、いじめや不登校、人権問題などの人災にも着目し、災害や問題を防ぐという観点だけでなく、心に寄り添い育んでいく教育活動につなげていき、大阪市全体に研究成果を発信していきたい。</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p> | | | | | | |